

- ・幼少時の記憶に纏わる投稿がありましたので少々口を突っ込んでみたくなりました。

〔YouTube〕 <https://www.youtube.com/watch?v=PkYGfxMnhE8>

- ・先ずは投稿して戴いたことに対して有難く感謝いたします。
- ・それでは（鮮明なるものと自認している）思い出から補足をさせていただきます。

〔循環線の運行形態の変遷〕

- ・最初は昭和30年に『循環線』の名称で発足し ボンネット型車体で車掌も乗務していました。ワンマンカー化は相当後のことです。
- ・当初の『循環線』経路は 現在の『三条二河宝町線』の経路に類似しているといえます。
- ・その後『循環線』の名称は『二河循環線』に改められ 他に『長の木循環線』が発足して暫くの後に『中央棧橋循環線』『長迫循環線』外や広町内に2系統の循環線が順次運行されました。以降 循環線名称や運行経路の変遷が数多くありますが それら各々の経緯を克明には記憶しておりません。〔中央棧橋の所在は宝町地内〕
- ・ただし 現行『三条二河宝町線』への名称変更は 『(二河)循環線』⇒『二河本通循環線』から始まって少なくとも3度の名称変更と併せて運行経路の変更を重ねていると記憶しております。
- ・『(二河)循環線』時代では《右回り》と《左回り》での1日当りの運行回数に差異は殆んどありませんでした。

〔車体と塗装〕

- ・当初『(二河)循環線』と『長の木循環線』に投入された車体は いずれもボンネット型でしたが『長の木循環線』で使用された車長は『(二河)循環線』に比べて長めのものでした。〔この車長の相違は 走行する道路形状の相違によるものであろう と勝手に判断していましたが真実の理由は不知です。〕
- ・当初『中央棧橋循環線』に投入された車体は当時製造されていたマイクロバス仕様で 乗降が非常に不便でした。
- ・呉市営バスの当初の塗装は 白地に濃青 が基調でした。循環線が他の一般路線と見分け易いようにバス窓枠直下の青色一条が赤色に変更され 結果この赤色帯が形態は変化したものの最終塗装として維持されました。〔濃青からスカイブルーへの変更は大型車体導入時からではなかったかと記憶しております。〕
- ・ウィキペディアに『過去、循環線には黄色とスカイブルーが使われていた。』との記事がありますが この表記は《一時的に黄色帯の場合もあった》との意でしょうかネ。

〔当方の係わったこと〕

- ・昭和30年(小学校2年生時)『循環線』に およそ3周乗車して車掌から自宅近くの停留所で下車させられました。 最多1週の乗車で事が足りるので当然といえば当然のことです。
- ・昭和37年(中学校3年生時)『長の木循環線』に後にも先にも1度きりの乗車をしました。この時の車掌が偶然にも中学校の先輩でありました。このことから 呉市営バスは当時にはワンマンカー化されていなかったこととなります。

〔ウィキペディアには 昭和30年にワンマンバスで二河循環線が運行開始された との記事が
掲載されていますが . . . ? ! 〕